

サウーデ教会女性部会報

2017年 4月 N° 287



もくじ

ページ

- ◆ 巻頭言 (2)
丹羽昭男
- ◆ 「シモンの 姑 の癒し」 (4)
生野正子
- ◆ あかし (6)
生野正子
- ◆ 「神様のあわれみ」 (8)
向高悦子
- ◆ 「ありがとう、イエス様」 (9)
川崎智江子
- ◆ ちよつと立ち話し (11)
阿部みちえ
- ◆ わたしの好きな御言葉 (12)
蛸井恵子
- ◆ 個人消息 (12)
- ◆ おためしあれ (12)

巻頭言

丹羽昭男 師

【1】シモンの 姑 の癒し

ルカ 4章38 ～ 39節

【1】はじめに

ここに、主イエスによってシモンの 姑 が癒されたことが記されている。

そのことを見つ、
私たちの救いについて考えて
みよう。



【2】人々の願い

シモンの 姑 の癒しの為に「人々
主イエスにお願いした」とある。その人々
の中にはもちろん 姑 本人の願いも
あった。さらにシモンや家族の者たちの
願いもあったと思う。また、そこに集ま
った親族たち、近所の人たち、友人知人
の願いもあった。その願いに主イエスは
答えられて 姑 を癒された。

私たちの救いもまた、そうではなかつたか。
私たちの願いももちろんあった。しかし、
周りのクリスチャン達の願いの上
にたつ熱心な祈りとお世話があったは

ずである。その祈りに主イエスは答えてくださり、私たちの内に救いの御業がなされたのである。それゆえ、

私たちもまた、求道者

の方々の救いのために熱心に祈り続けよう。

「3」癒しのみわざ

主イエスは彼女の「枕元に立って、熱が引くように命じられた」。すると直ちに熱は引き癒された。主イエスの御業はいつも直ぐである。主イエスが命じられて何時間か経って癒されたのではない。



少し前まで高熱で苦しんでいたのにである。もう少し横になって休んでいた方がいいのではないかと私たちは思う。けれど彼女は癒されるや、もうじつとしていることが出来なかった。感謝と喜びでいっぱいになり働き始めたのである。私たちもまた、救われた時、感謝と喜びに満たされ主イエスのために何かをせずにはおられなかった。しかし、救われて年月が経つてくると、この感謝、喜び、感激が段々と薄れてくるようになる。あの救われた時の感謝と喜びを今も持つて、いつも奉仕に証に励みたいものである。

直ぐ癒されたのである。私たちの救いの御業もまた、直ぐになされた。私たちが主イエスを自分の救い主と信じたその時に救われたのである。主を告白してから数時間後ではない。今日、信じるなら今日救われる。今、信じるなら今、救われる。これこそ、主イエスの救いの御業である。

「4」すぐに奉仕を

彼女は主イエスによって癒された。すると彼女は、「すぐに起き上がって、そこに来ていた人々をもてなした」とある。彼女は癒されると直ちに働き始めた。

救いのあかし

生野 正子

受洗日 1959/9/7

*長女としての重荷

父は綿づくりをしていたが、仕事嫌いなため家計はいつも大変だった。私は

7人兄弟の長女。16歳で裁縫学校へ。その後、ビラカロンで洋裁の仕事に就き、

長年家計を支えていました。私にお見合

い話が来ても「今、出られると困るから」と、母が勝手に断っていたほどです。



*御言葉の慰め

母はある日、隣のご夫妻が日曜日にいつも出かけるのを見て「どこへ行くのか？」尋ねました。「教会です。ご一緒にどうですか？」と誘われ、母と弟妹たちは教会へ行き始めた。私は洋裁の仕事で忙しく、行きたくても行けない日々が長年続きました。でも当時は林先生のラジオ放送を心待ちに耳を傾け、また母を訪ね来る先生方のお話しに手を動かしながら聞き入っていた。「もう死んだ方がまし」と思う時もあったが、御言葉は家族の為に重荷を負う私を励ましてくださった。

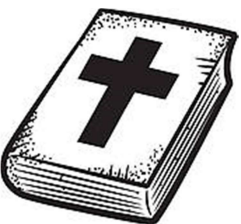
*受洗

ようやく教会へ行けるようになって、両親たちと共に受洗。約3年間の教会生活はとても幸せでした。結婚後は夫に遠慮し行けなかったが、御言葉に支え続けられた。母は亡くなる時「兄弟みんなで教会へ行つて欲しい。教会はぶどうの木だからその枝につながっていなさい」と言い残した。その言葉はずっと胸にあり、どんな時も神様を忘れないよう生きてきました。今では苦労したすべてが感謝に変わり、元気で不自由なく、神様のお守りを感じ過ごせる日々は幸いです。

特にマタイ6章33〜34節と、11章28節には何度も慰められました。

*無関心だった父の回心

父は肺病で2か月ほど入院。退院後は集会へ行くようになった。その頃は、治らない病気と言われ誰も近寄りませんでした。本人も諦めていたなか完治。奇跡的な体験を通し神様を信じるようになったのだと思います。また多くの方々に祈ってもらい、とくに片山家の皆さん、長谷川俊三ご夫妻には感謝しています。



あかし



神様のあわれみ

生野 正子

2003年の暮れに骨粗しょう症の影響で膝の上を骨折し入院しました。近所までパンを買いに出た帰り道。我が家まであと数軒先という時、突然、骨が折れ道端に座り込んでしまいました。それを目撃した向かいの銀行に居た人たちが、急いで駆け寄ってくれました。ちょうど同居する娘は仕事に出た後で自宅

には誰もいません。事情を知った彼らは救急車を呼び、娘に連絡を入れ、自宅からドキュメントも取って来てくれました。病院までは隣の方が付き添ってくださり、本当に助けてもらったと心から感謝しています。

後で気付いたのですが、家にパンは買に行かずとも十分ありました。「なのになぜ私は買いに出たのだろう?」もし、自宅だったら朝から娘が帰宅する夜までずっと動けず、誰にも気付かれなかったことでしょう。そんな私を神様は隣れんで外へ出るようにと導かれたのだと

ありがとう、イエス様

向高悦子

3月のこと。友人の四十九日の法要へ行くためバスに乗りました。目的地のバス停で降りようとしていた時、「えっ?」開いたドアはあつという間に閉まり、私の身体が挟まれてしまいました。左半身はバスの中に、右半身はすでに外へ出でいて、脱げた靴は飛ばされていた。さらに有ろうことか、バスはそのまま発車したのでです。「止まって、止まって!」慌てて叫ぶ乗客たちの声に急停止。開いたドアから見えた左足は、すでに腫れ上が

今では確信しています。そのことを思い返す度に感謝でいっぱいになります。

それから、娘たちが一人での外出を心配するので教会へもあまり伺えずにいますが、常に神様のお守りを感じて生きています。毎朝聖書を読み、朝晩祈り、お送りいただく週報も嬉しく読んでいます。

日頃より気にかけて祈ってくださいている丹羽先生や美香先生、教会の皆様深く感謝申し上げます。



っていた。運転手に「私が出ようとしてるのに、どうして、そんなにすぐに閉めたのか?」と質すと、「ごめん。ごめん」と何度も謝ってきた。「病院へ行くか?」と尋ねられたが、「大丈夫」と断って私はバスを降りました。そして、道すがら祈りました。「イエス様、ありがとうごさいます。これくらいの怪我で済んで本当に良かったです。ありがとうございます」。どん良かった。ありがとうごさいます」。どんな感謝が溢れ、喜びに満たされてゆきました。法要にも間に合って、無事帰宅。今もあの時の瞬間を思い出す度に、生まれ変わったような気持ちになります。

これまで試練もありましたが、恵みを頂く方が多かったです。からし種のように小さな信仰ですが神様はいつも守っています。くださっています。

ちよつと

立ち話し



教会は、いつでも

イエス様のお話し

でいっぱいです。

川崎 智江子

これまで教会に通うようなことはなかったが、幼いころから自然にキリスト教には接していました。家庭集会にも

兄妹たちと出入りしていたし、その時の先生には大きな影響を受けました。

*なぜサウデー教会へ？

共に信仰生活を歩んでいた夫が2年前に亡くなり、今後の事を色々と考えていました。クリスチャンの子供たちも心配していたので、「はつきりしておかないと彼らが迷うだろう」と、息子が薦める教会をいくつか訪ねることに。でもポ語が中心の礼拝にはどうも馴染めず。こちらには家庭集会から導かれ、日本らしい雰囲気がとても居心地が良く「ここならいいな」とすぐに思いました。先生方の

お話しも難しくないのが有難いです。

私みたいな者の目の高さにも合わせてくださるから「分かってもらえている」そんな安心感があります。昨年末には先生のお声掛けにより、受け入れ式をしていただいで感謝と喜びでいっぱいです。

*信仰生活

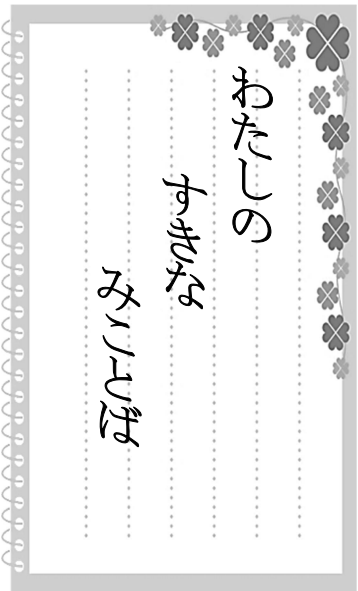
これまでの歩み中で唯一、残念に思うこと。それは家庭内で祈りの習慣を根付かせられなかったことです。メッセージを通し、つくづく祈りの大切さを思い知り、食前の祈りから始め、今では少しずつ祈れるようになってきました。

*守ってくださる神様

独りなので食事は簡単に、残り物をいただくこともあります。先日は圧力鍋で煮物をつくり、余りはそのまま鍋に入れておきました。次の日、温めて食べようとしながら何となく気になって鍋を覗いてみると、煮物は傷んでいました。もし、確認せず温めていたら気付かずに食べたかもしれない。翌日は日曜礼拝。奉仕を頼まれていたので、もし腹痛などで休めばご迷惑をおかけしたかもしれません。神様のお蔭と感謝しました。



などでお蔭と感謝しました。



わたしの

すきな

みんなとば

どうして良いかわからず、私はとても
疲れていた。「年のせいだろう…」と、
ちよつと、あきらめもあった。

でも教会のみなさんは、そんなことがな
いみたい。きつとお祈りしているからだ。
私もこの御言葉を握って祈ろう。

大丈夫、良くなる。イエスを信じて
必死に祈り続けた・・・。
すっかりイエス様にお任せ

してしまつてから、いつの
間にか楽になつていた。

怪我也もどんどん良くなり、
疲れはもう感じなくなつていた。



阿部 みちえ

すべて重荷を負うて苦労している者は、
わたしのもとにきなさい。

あなたがたを休ませてあげよう。

マタイ 11章 28節

*しなくちやいけないことに追われた
昨年末。腕を怪我したこともあつて、

家庭集會案内

今年度より新しく、片山姉、山田姉

のご自宅で家庭集會をもつ予定です。

詳しくは追つて週報にてお知らせいた
します。どうぞお祈りください。

個人消息

召天者

佐藤 綾子 姉 (享年98歳) 3月4日

ご遺族の上に主のお慰め

が豊かにありますよう

お祈りいたします。



※あとがき※

今年は、「わたしの好きなみことば」を
お訊ねしています。御言葉にまつわる
お証しも一緒にお聞かせください。(小原



蛸井恵子

◎椎茸の戻し汁を美味しくする方法◎

「戻し汁は苦い」と捨てていましたが、
一度、火で沸騰させてから灰汁をすくい
取るといい。と聞き試したところ、とて
も美味しくなつた。さらに砂糖水で戻す
と椎茸がよりふつくら戻せました。